



めぐみだより No.1

令和2年7月20日(月)

6月7月の子どもの姿と保育



うさぎぐみ

うさぎ組という憧れの学年になり、いざスタートできるかと思った矢先の休園で、うさぎ組になった喜びと不安とで園生活が始まりました。そんなそれぞれの子どもたちの気持ちを受け止めながら、無理なく過ごすことが出来るよう心掛けました。一人ひとり「こんなことも出来た」「これもやってみたい」などの気持ちをそれぞれ抱えています。そんな姿に「さすがうさぎ組だね！」と、子どもたちの気持ちや頑張りや意欲を認めながら、新しいことに挑戦していく心が育つように、という思いで保育をしてきました。



マルチパネ

共通のイメージを持って作れるようにと、何を作るか話し合い。【2階建てのお家】を作りはじめました。最初は大きなパーツを一人一つ持って組み立て始めます。しかし徐々に、押さえる人や支える人や、組み合わせる人など、色々な役割に気付き、自然と分担していました。その際に話すことは、小さい組さんのこと。「ここは危ないから、ない方がいいよ」などと、“自分たちの遊び場”というより、“小さい組の子たちが安全に楽しく遊べるように”という思いで作っていました。これも普段の遊びや生活を共にしているからこそその姿で、微笑ましく、頼もしく感じました。

しゃぼん玉

水遊びの一つとして、まず石けんで泡遊びをしました。「石けんは削ったらどうなるかな？」と聞くと、びちゃびちゃやベタベタやサラサラと様々。いざ削って触ってみると「サラサラで気持ちいい〜」「サラサラなのに握ったら固まるよ！」と感触を楽しんでいました。その削った石けんでしゃぼん玉を作ろうと話しました。水と石けんだけではしゃぼん玉は“出来ない”というみんなの予想。「実験だ〜！」と始まりました。泡立ったり、水をたくさん入れるなど、それぞれに試行錯誤。そんな中成功した子の液体と自分のとを比べ、何が違うのかに気付き、全員しゃぼん玉を作ることに成功しました。ストローで吹いていましたが、吹くものも工夫しました。物によって息の加減や離すタイミングに苦戦していましたが、コツをつかむと上手に吹いて楽しんでいました。最初の予想に反して、保育者が「しゃぼん玉大成功だったね」と話すと「最初は失敗もしてたよ」という子もいましたが、失敗しても諦めずに考えたり、仲間と話したりすることで成功につながった、“失敗も大切”ということを実際にやってみて経験することができました。



はとぐみ

待ちに待ったはと組への進級。はと組の胸章をつけてもらい緊張の中にちょっぴり誇らしげな笑顔になった子ども達。緊急事態宣言で長い間休園になってしまいましたが、再開すると、それぞれのお子さんが張り切って生活する姿が見られました。年少児のお世話をしたり、一緒に遊んであげたりする姿やクラスの友達とかかわって遊びを楽しむ中で、言葉でのやり取

りが増えている姿に育ちを感じています。自分の思いを言葉で相手に伝えることは難しいですが、一緒に遊びを楽しむことで友達の気持ちに触れたり、面白そうな遊びを真似てみたり、「ここはこうしない？」など自分の意見を伝えながら経験を広げていく姿も見られるようになってきました。

砂遊びから

大きな砂場で裸足になって、高い山を作りトンネルを掘り、川作りをした時のこと。「こっちの水はあったかいのに、あっちの水は冷たいよ」「どうして？」とAちゃん。

それを耳にしていたBちゃんがちょっと考えながら「こっちは、太陽があたっているからなんじゃない？」「あっちは影(日陰)がみえるでしょ」と遊びの中で多々の不思議と発見を感じながら遊ぶ子ども達。あちらこちらの遊びの中で学びがいっぱいの様子です。

ころころ遊び制作から

紙コップと紙ボール皿を組み合わせて制作を楽しみました。クラス全体に作り方を説明し、始めてみると、指示通りに作っていく子、ひとつひとつ確認しながら作っていく子、作業が始められない子などそれぞれでしたが、最後にはみんなが作れてころころ遊びを楽しむ事が出来ました。



ひよこぐみ

・入園式後の登園が3日。その後コロナ感染緊急事態宣言により休園となり、6月からのスタートになりました。新しい環境の中で園生活のリズムに慣れていけるように一人ひとりのお子さんの様子を見ながら生活の基本(排泄、着替え、食事、身の回りの始末等)の援助をしていきました。6月後半になると、登園して自分の靴箱に外靴を入れ上履きに履き替えて、お部屋に入りテーブルの上のかごに出席ノート入れ、カバンをロッカーにかけると朝の一連の活動を覚え自分でやろうとするお子さんが増えました。

排泄はお子さんの様子を見ながら誘っていますが、お参り前、お弁当の前と時間を決めてお友達と一緒に行く時間を大切にしました。

・一人ひとりの遊びや興味が違うのでクラスの友達との接点がなかったのですが、6月後半になると、クラスの友達の存在を感じ始めて近づいてちょっかいを出したり、関心をもつ子を凝視して、それに気づいた子に「見るな！」と言われとっさに両手で顔を隠し、指の間から再び覗く姿に、友達への関心の芽生えを感じました。最近では、大型三輪車に乗っている子の後から押してあげる姿や「こっちにおいで」と声をかけたり、手を握ったりする姿も見られるようになってきました。

・6~7月は、生活習慣の自立に重点をおき、お子さんがお気に入りの遊びを見つけて楽しみながら幼稚園って楽しいを感じていけるように環境を整えたり、友達への関心の芽生えを大切にしてきました。2学期は友達と一緒に遊ぶ中で「いれて」「かして」「ありがとう」「ごめんね」などの言葉で少しずつ繋がっていきけるような保育を考えながら、一人ひとりのお子さんがお気に入りの遊びを楽しんで“幼稚園って楽しいね”を感じていけるようにしていきたいと思っています。